

中小企業景況調査報告書

2024年10～12月期実績
2025年1～3月期予測

この調査は、商工会の経営改善普及事業の指導資料にするため、国・道の指定事業として、全国商工会連合会を中心に昭和54年から全国一斉に実施しているものである。
調査要領と、北海道分の調査対象20商工会の回答企業数は、次のとおりである。

1. 調査要領

- (1) 調査対象時期等
 - ①調査対象時期：2024年10～12月期の実績及び2025年1～3月期見通し
 - ②調査期間：2024年11月1日～11月18日 ※調査時点は2024年11月15日
- (2) 調査方法
 - ①商工会の経営指導員等による訪問面接調査
 - ②調査対象企業の抽出は、業種・規模等の有意抽出法による。
- (3) 調査対象商工会
 - ①人口～9,999人・・・せたな、ニセコ町、積丹町、北竜町、南富良野町、遠別枝幸町、安平町、鹿追町、本別町、弟子屈町
 - ②人口10,000～29,999人・・・七飯町、えんがる、湧別町、新ひだか町、別海町
 - ③人口30,000人～(市に含まれる)・・・石狩北、北斗市、いわみざわ、あさひかわ

(4) 回答企業数

業種	調査企業数	回答企業数	回答率	業種	調査企業数	回答企業数	回答率
製造業	48	44	91.7%	小売業	87	86	98.9%
建設業	51	51	100.0%	サービス業	114	107	93.9%
				合計	300	288	96.0%

※設備投資の設問については、未回答の企業があるので回答企業数とは一致しない業種があります。

- (5) D I = ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)とは？
前年同期と比べて、「増加(上昇・好転)」-「減少(低下・悪化)」の回答企業の比率。
例えば、売上高が前年同期比で「増加」回答企業50%、「不変」回答企業30%、「減少」回答企業20%の場合、D I は50-20=(+)30となり、売上高の面では「増加(上昇・好転)」気運であることを表わす。

2. 全業種の業況(前年同期比、前期比の推移) ※D I 値のみ

業種	前年同期比		前期比				今期	
	今期	来期見込	R5.10-12	R6.1-3	R6.4-6	R6.7-9	今期	来期見込
製造業	▲ 31.8	▲ 20.5	6.0	▲ 11.8	▲ 21.3	▲ 4.4	▲ 27.3	▲ 22.8
建設業	▲ 23.5	▲ 19.6	▲ 8.9	▲ 10.6	▲ 16.0	▲ 3.9	▲ 15.6	▲ 41.2
小売業	▲ 27.9	▲ 36.0	▲ 25.3	▲ 23.2	▲ 34.2	▲ 26.5	▲ 29.1	▲ 30.2
サービス業	▲ 23.4	▲ 27.1	▲ 13.6	▲ 31.5	▲ 32.7	▲ 11.1	▲ 20.5	▲ 29.9

3. 北海道内商工会地域の状況

製 造 業		主要景況項目の推移（前年同相比、前期比の推移）						
項 目	状 況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R6. 1-3	R6. 4-6	R6. 7-9	今期	来期見込
業況	好 転	2.3	6.8	6.4	8.7	8.9	4.5	4.5
	不 変	63.6	65.9	65.9	69.6	77.8	63.7	68.2
	悪 化	34.1	27.3	27.7	21.7	13.3	31.8	27.3
	D・I	▲ 31.8	▲ 20.5	▲ 21.3	▲ 13.0	▲ 4.4	▲ 27.3	▲ 22.8
売上(加工)額	増 加	11.4	11.4	12.8	32.6	28.9	13.6	
	不 変	45.4	54.5	40.4	37.0	51.1	45.5	
	減 少	43.2	34.1	46.8	30.4	20.0	40.9	
	D・I	▲ 31.8	▲ 22.7	▲ 34.0	2.2	8.9	▲ 27.3	
資金繰り	好 転	0.0	2.3	4.3	4.5	2.3	2.3	
	不 変	76.7	76.8	80.5	81.9	84.1	81.4	
	悪 化	23.3	20.9	15.2	13.6	13.6	16.3	
	D・I	▲ 23.3	▲ 18.6	▲ 10.9	▲ 9.1	▲ 11.3	▲ 14.0	
原材料仕入単価	上 昇	63.6	45.5					
	不 変	36.4	54.5					
	低 下	0.0	0.0					
	D・I	63.6	45.5					
採算(経常利益)	好 転	2.3	6.8					
	不 変	54.5	63.7					
	悪 化	43.2	29.5					
	D・I	▲ 40.9	▲ 22.7					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

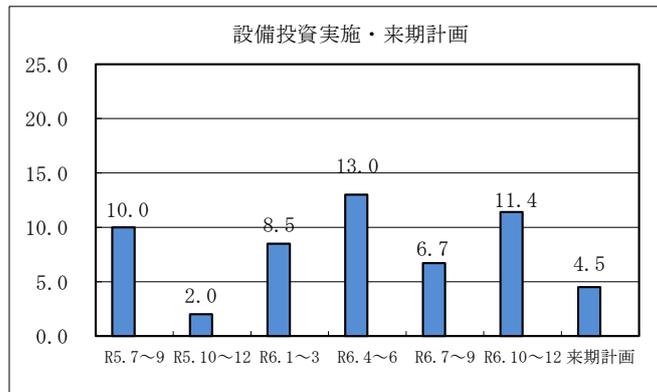
回答44事業所の内、5事業所(11.4%)が実施。

●生産設備=3事業所、●車両・運搬具=2事業所、●付帯施設=1事業所

【来期計画内容】

回答44事業所の内、来期に2事業所(4.5%)が計画。

●生産設備=2事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は前回同様1位だった「需要の停滞」と前回2位だった「原材料価格の上昇」で「需要の停滞」は5.0ポイント減少し「原材料価格の上昇」は2.5ポイント減少している。2位は前回4位だった「製品ニーズの変化」と前回5位だった「生産設備の不足・老朽化」で「製品ニーズの変化」は2.5ポイント増加し「生産設備の不足・老朽化」は5.0ポイント増加している。3位は前回3位だった「従業員の確保難」で2.5ポイント減少した。



建設業		主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）						
項目	状況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R6. 1-3	R6. 4-6	R6. 7-9	今期	来期見込
業況	好 転	2.0	2.0	4.5	4.1	13.7	2.0	0.0
	不 変	72.5	76.4	75.0	77.5	68.7	80.4	58.8
	悪 化	25.5	21.6	20.5	18.4	17.6	17.6	41.2
	D・I	▲ 23.5	▲ 19.6	▲ 16.0	▲ 14.3	▲ 3.9	▲ 15.6	▲ 41.2
完成工事 （請負工 事）額	増 加	15.7	5.9	15.9	22.4	33.3	15.7	
	不 変	49.0	64.7	45.5	42.9	54.9	62.7	
	減 少	35.3	29.4	38.6	34.7	11.8	21.6	
	D・I	▲ 19.6	▲ 23.5	▲ 22.7	▲ 12.3	21.5	▲ 5.9	
資金繰り	好 転	2.0	2.0	9.1	8.3	8.0	2.0	
	不 変	82.0	78.0	77.3	81.3	84.0	86.0	
	悪 化	16.0	20.0	13.6	10.4	8.0	12.0	
	D・I	▲ 14.0	▲ 18.0	▲ 4.5	▲ 2.1	0.0	▲ 10.0	
材 料 仕入単価	上 昇	64.0	54.0					
	不 変	36.0	44.0					
	低 下	0.0	2.0					
	D・I	64.0	52.0					
採算（経 常利益）	好 転	3.9	2.0					
	不 変	64.7	66.6					
	悪 化	31.4	31.4					
	D・I	▲ 27.5	▲ 29.4					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

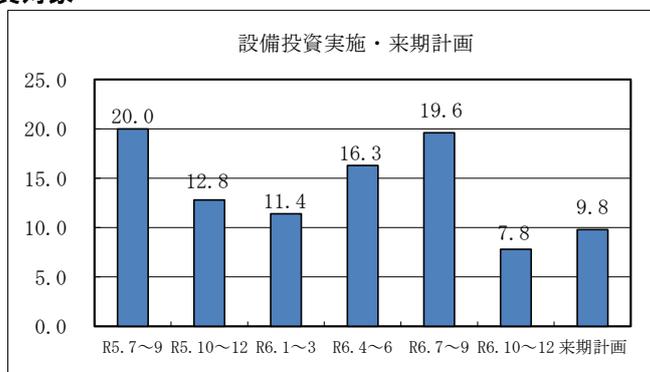
回答51事業所の内、4事業所（7.8%）が実施。

●車両・運搬具、建設機械=各2事業所

【来期計画内容】

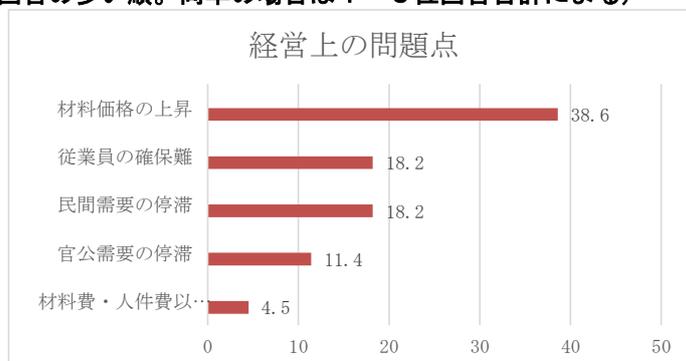
回答51事業所の内、来期は5事業所（9.8%）が計画。

●車両・運搬具=2事業所 ●建物、建設機械、OA機器=各1事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は前回同様の「材料価格の上昇」で5.3ポイント増加した。2位は前回同様「従業員の確保難」と前回3位だった「民間需要の停滞」で「従業員の確保難」は8.0ポイント減少し「民間需要の停滞」は3.9ポイント増加した。3位は前回4位だった「官公需要の停滞」で1.9ポイント増加した。5位は前回同様5位だった「材料費・人件費以外の経費の増加」で0.3ポイント減少した。



小 売 業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項 目	状 況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R6. 1-3	R6. 4-6	R6. 7-9	今期	来期見込
業況	好 転	4.7	3.5	7.6	7.3	6.0	2.3	7.0
	不 変	62.7	57.0	50.6	61.0	61.5	66.3	55.8
	悪 化	32.6	39.5	41.8	31.7	32.5	31.4	37.2
	D・I	▲ 27.9	▲ 36.0	▲ 34.2	▲ 24.4	▲ 26.5	▲ 29.1	▲ 30.2
売上額	増 加	19.8	8.1	8.8	21.7	25.9	17.4	
	不 変	50.0	61.7	44.9	49.4	43.5	50.0	
	減 少	30.2	30.2	46.3	28.9	30.6	32.6	
	D・I	▲ 10.4	▲ 22.1	▲ 37.5	▲ 7.2	▲ 4.7	▲ 15.2	
資金繰り	好 転	6.0	3.6	3.8	7.4	7.2	1.2	
	不 変	73.8	75.0	69.3	67.9	73.5	80.9	
	悪 化	20.2	21.4	26.9	24.7	19.3	17.9	
	D・I	▲ 14.2	▲ 17.8	▲ 23.1	▲ 17.3	▲ 12.1	▲ 16.7	
商 品 仕入単価	上 昇	62.8	51.2					
	不 変	34.9	43.0					
	低 下	2.3	5.8					
	D・I	60.5	45.4					
採算(経 常利益)	好 転	7.1	4.7					
	不 変	58.8	55.3					
	悪 化	34.1	40.0					
	D・I	▲ 27.0	▲ 35.3					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

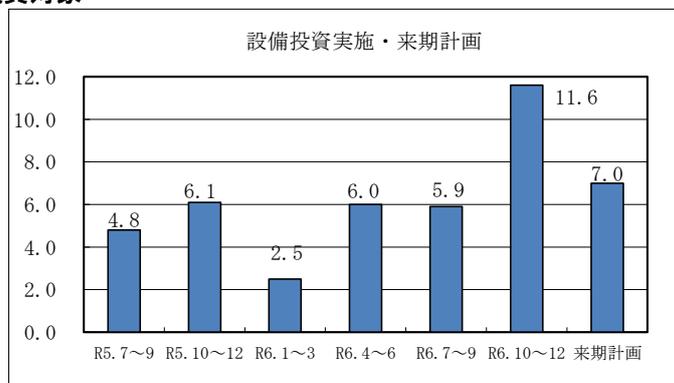
回答86事業所の内10事業所(11.6%)が実施。

●車両・運搬具=4事業所、●OA機器=3事業所、●販売設備=2事業所、●付帯施設、その他=各1事業所

【来期計画内容】

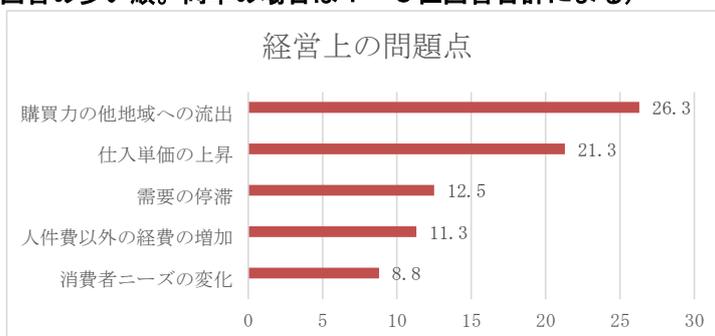
回答86事業所の内、来期は6事業所(7.0%)が計画。

●店舗、販売設備、OA機器=各3事業所、●土地=2事業所、●車両・運搬具=1事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は前回同様「購買力の他地域への流出」で0.3ポイント減少した。2位は前回同様「仕入単価の上昇」で2.8ポイント減少した。3位は前回4位だった「需要の停滞」で2.4ポイント増加した。4位は前回3位だった「人件費以外の経費の増加」で5.2ポイント減少した。5位は前回同様「消費者ニーズの変化」で2.5ポイント増加した。



サービス業

主要景況項目の推移（前年同期比、前期比の推移）

項目	状況	前年同期比		前 期 比				
		今期	来期見込	R6. 1-3	R6. 4-6	R6. 7-9	今期	来期見込
業況	好 転	6.5	2.8	3.8	5.9	13.0	7.5	3.7
	不 変	63.6	67.3	59.7	65.7	62.9	64.5	62.7
	悪 化	29.9	29.9	36.5	28.4	24.1	28.0	33.6
	D・I	▲ 23.4	▲ 27.1	▲ 32.7	▲ 22.5	▲ 11.1	▲ 20.5	▲ 29.9
売上(収入)額	増 加	22.4	7.5	8.7	24.0	30.3	11.2	
	不 変	52.4	67.3	51.9	52.0	43.1	58.0	
	減 少	25.2	25.2	39.4	24.0	26.6	30.8	
	D・I	▲ 2.8	▲ 17.7	▲ 30.7	0.0	3.7	▲ 19.6	
資金繰り	好 転	2.9	2.9	1.0	5.8	5.6	3.8	
	不 変	78.8	79.8	71.5	75.8	72.9	78.9	
	悪 化	18.3	17.3	27.5	18.4	21.5	17.3	
	D・I	▲ 15.4	▲ 14.4	▲ 26.5	▲ 12.6	▲ 15.9	▲ 13.5	
仕入単価(材料等)	上 昇	63.8	49.5					
	不 変	36.2	50.5					
	低 下	0.0	0.0					
	D・I	63.8	49.5					
採算(経常利益)	好 転	9.3	4.7					
	不 変	58.9	63.5					
	悪 化	31.8	31.8					
	D・I	▲ 22.5	▲ 27.1					

○ 設備投資実施・来期計画と投資対象

【今期実施内容】

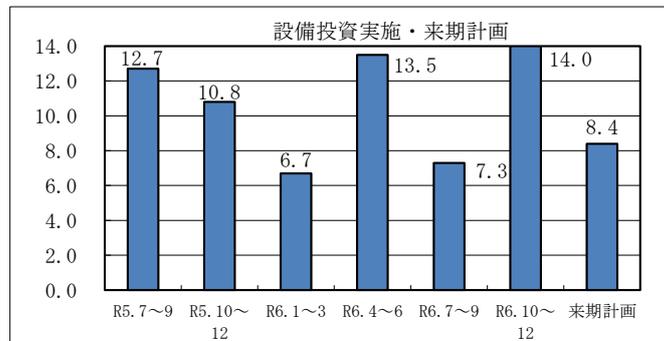
回答107事業所の内、15事業所(14.0%)が実施。

●土地、建物、サービス、車両・運搬具=各3事業所、●OA機器、その他=各2事業所、●付帯施設=1事業所

【来期計画内容】

回答107事業所の内、9事業所(8.4%)が計画。

●車両・運搬具、付帯施設=各3事業所、●OA機器=2事業所、●サービス、その他=各1事業所



○ 今期の経営上の問題点（1位回答の多い順。同率の場合は1～3位回答合計による）

1位は前回同様「材料等仕入単価の上昇」で1.8ポイント減少した。2位は前回3位だった「利用者ニーズの変化」で3.2ポイント増加した。3位は前回2位だった「需要の停滞」で0.9ポイント減少した。4位は前回同様「人件費以外の経費の増加」で2.2ポイント増加した。5位は前回番外だった「従業員の確保難」で3.1ポイントの増加している。



4. 全国と対比した主要景況項目の動向 -前年同期比D I-

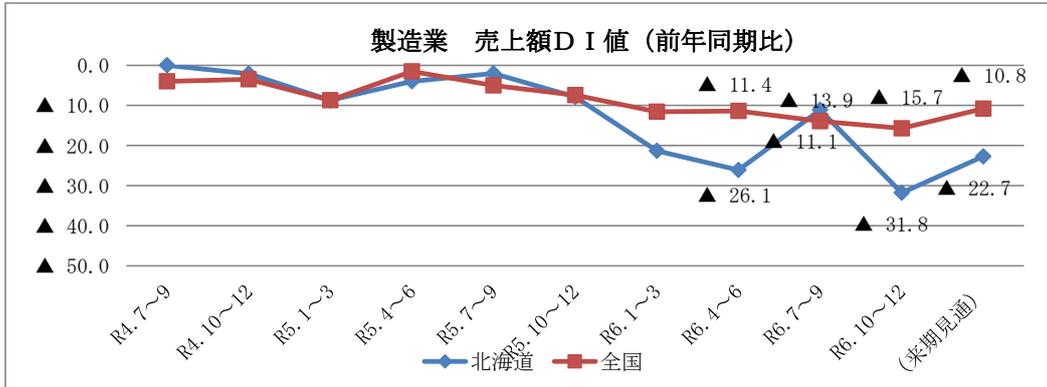
【各調査時期における前年同期比の「増加(上昇・好転)」回答企業比率-「減少(低下・悪化)」回答企業比率】

製造業

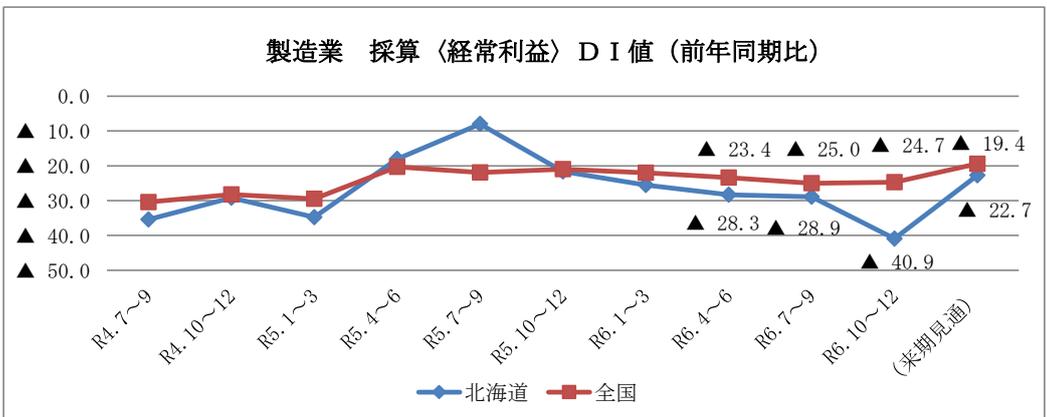
【北海道】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
(見込)売上額▲DI値…減少、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

【全国】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
(見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

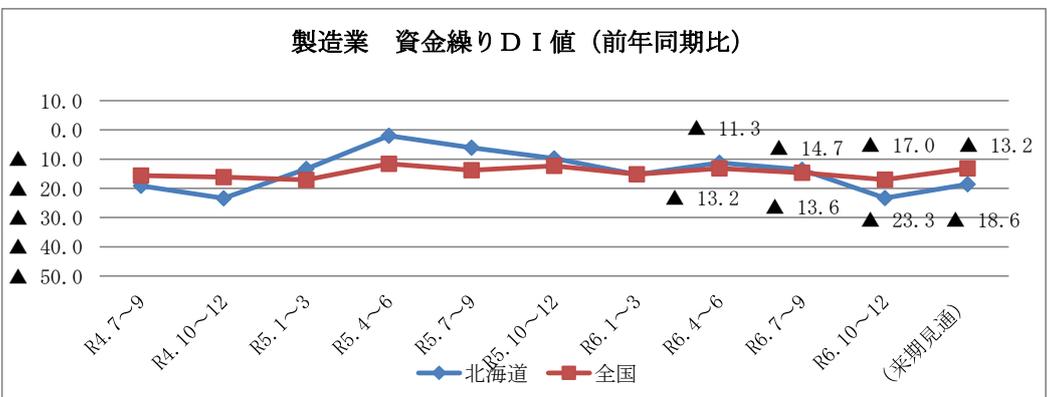
売上額



採算



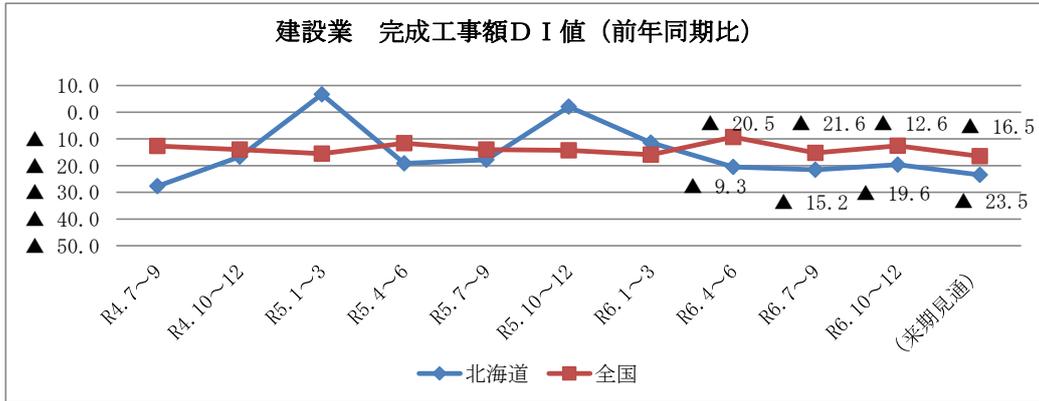
資金繰り



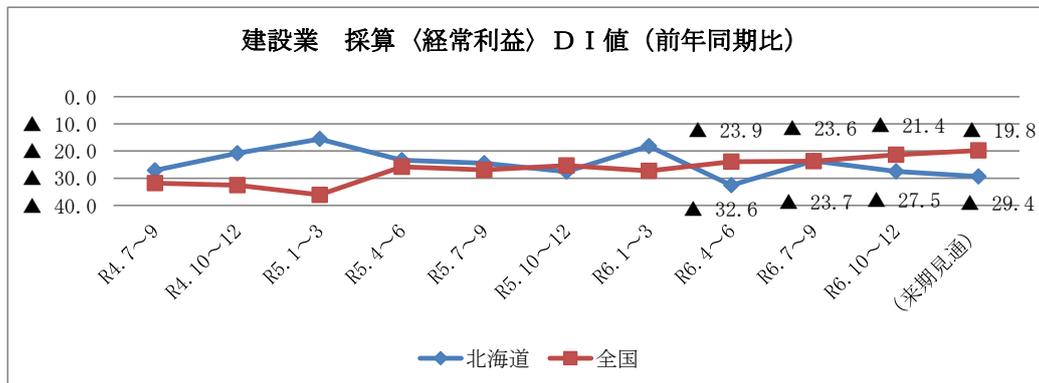
建設業

【北海道】(今期)完成工事額▲DI値…減少、採算▲DI値…減少、資金繰り▲DI値…減少
 (見込)完成工事額▲DI値…減少、採算▲DI値…減少、資金繰り▲DI値…上昇
 【全国】(今期)完成工事額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)完成工事額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

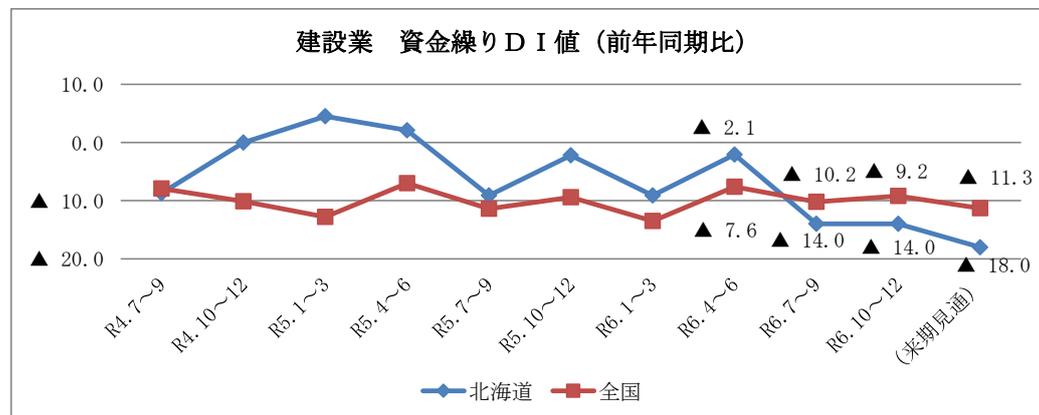
完成工事額



採算



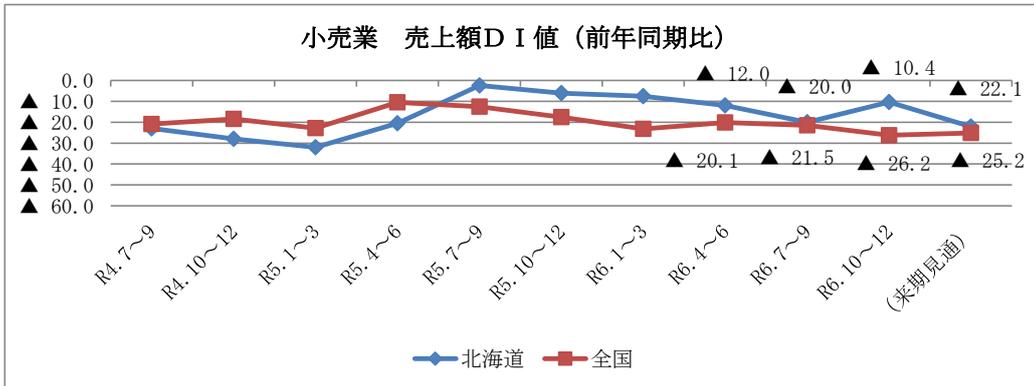
資金繰り



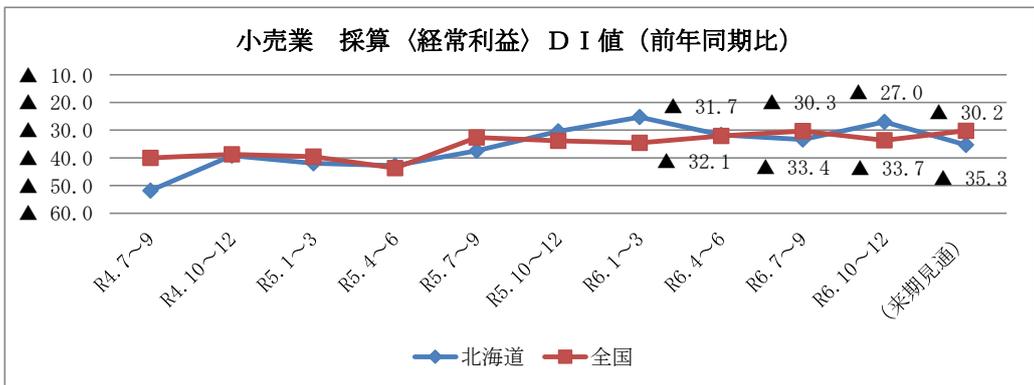
小売業

【北海道】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 【全国】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

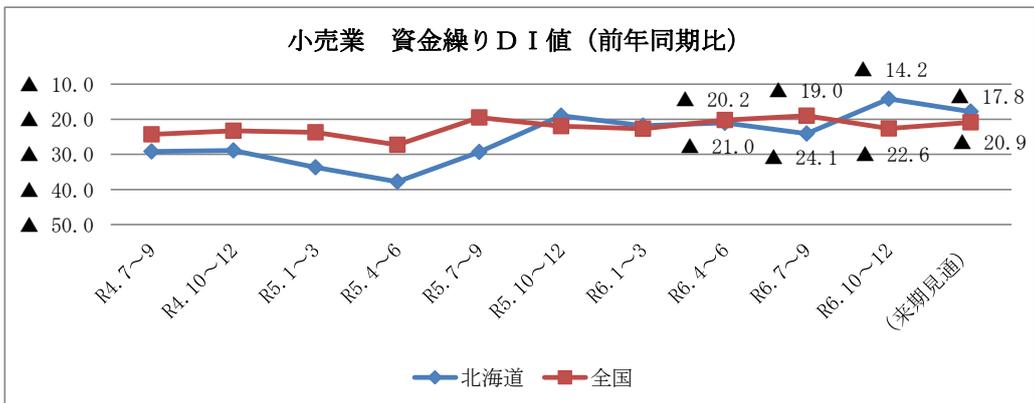
売上額



採算



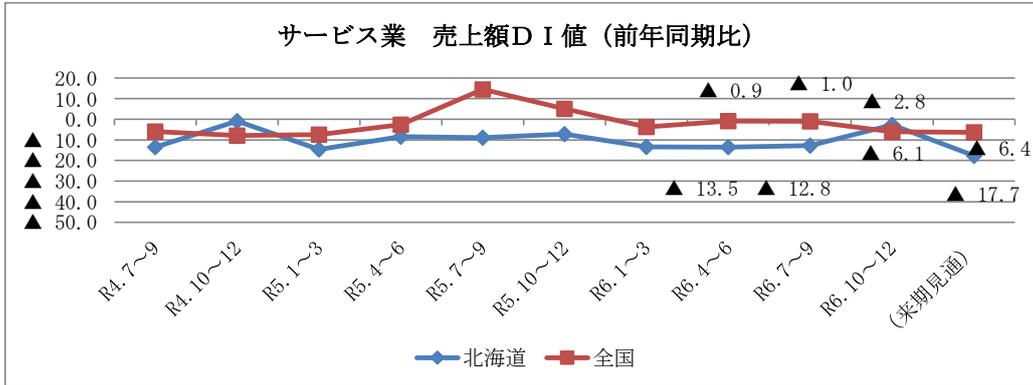
資金繰り



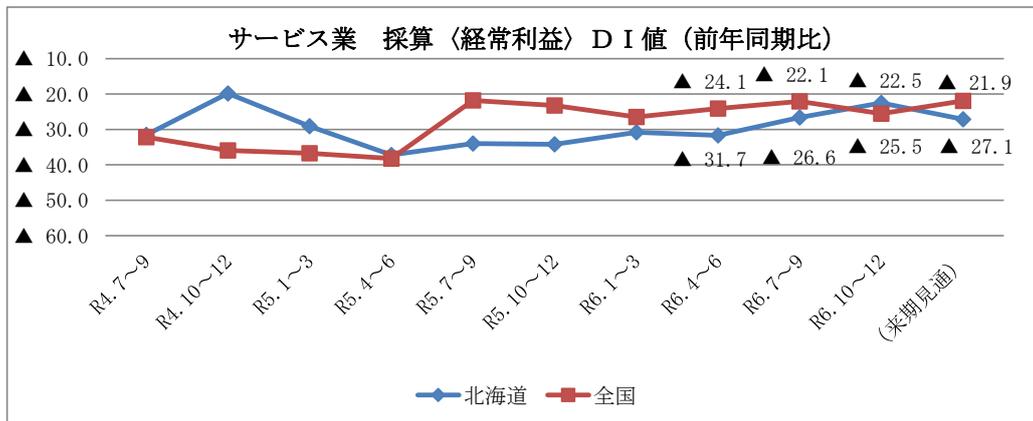
サービス業

【北海道】(今期)売上額▲DI値…減少、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 【全国】(今期)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇
 (見込)売上額▲DI値…上昇、採算▲DI値…上昇、資金繰り▲DI値…上昇

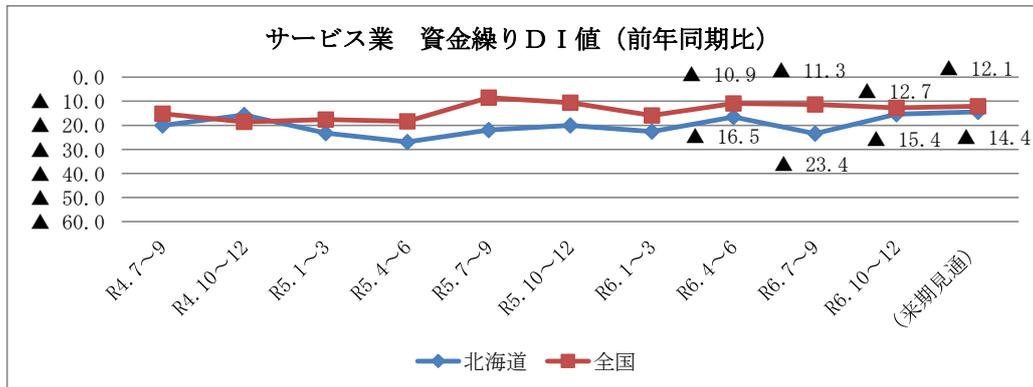
売上額



採算



資金繰り



5. 自社の業況判断の背景について感じている事(調査対象企業の声)

業種	内容
製造業	<p>○本州のレザー需要が全く無くなり、代わりにドッグフードを始めました。価格を徹底して見直し自社しかできない製品づくりとクオリティーを目指す。全国に2社しかない毛皮製造会社を残すべく徹底して変化を受け入れる</p> <p>○お客の大半はリピーターである。日本人（観光客）が少なくなっているようです。</p> <p>○原材料価格上昇などにより依然として厳しい中での経営である。</p> <p>○ここ数ヶ月で大きな改修工事の受注があり、その工事も完成の目途がたち落ちてきています。年末に向けまた数件大きな工事の受注をいただいておりますので今期の売上は順調といえます。</p> <p>○ここ2年間は、何が起きてもしかたない。何とか生き残りたい。</p> <p>○物価高の影響を感じる。お金を出すお客様と出さないお客様の両極端になっている。中間層が減っている印象を受ける。</p> <p>○昆布や秋鮭がとれず、一次産業には非常に厳しい状況が続いている。</p> <p>○昆布が取れず、入札も高くなっているが、価格転嫁ができない状況。</p> <p>○豆腐製造に係る設備が徐々に古くなり、設備更新を行ってまで事業を続けるかどうかの判断が迫られてきている。</p> <p>○原因は調査していますが、景気がよくありません。</p> <p>○原材料の高騰が止まらない。来年度予算見積を出す時期となるが、先を見通せない状況。</p> <p>○当社が扱う魚種が増えて売上が伸びた。一部水揚げが減少したが、他の魚種が増えた。</p>
建設業	<p>○民需の低下が顕著に見受けられます。特に今期の主力となる事業案件が中止となった上に、またそれらに次ぐ別事業も来期以降の案件であることから、今期の売上高の低迷を回復するのは困難な要因が多い状況です。</p> <p>○政治の不安定により、先行が不安</p> <p>○最低賃金が上がり、官公需要も停滞気味の中、会社の事業承継も考えていかなければならない。非常に難しい経営環境であるが、承継人は目途がついているため、教育もしっかりと行いながら、事業を存続させていく。</p> <p>○材料価格の上昇はさらに続き、人手不足、さらに官の工事の停滞により、さらに業況は厳しい局面にきているように思われる。</p>

<p style="text-align: center;">小 売 業</p>	<p>○高齢化、人口減少、これから冬に向かって電気代、灯油代を維持していくのは大変です。 ○急激に人口が減少してきている ○店舗運営体制が少しではあるが整い、販売体制が強化できる。 ○例年、夏場は外国人観光客はそれほど多くないが、今年は多かった印象。冬は昨年以上の増加が予想される。 ○仕入れ単価は上昇し、客単価は上がっていない。 ○人口減少と物価高騰はこの先ずっと続くので景気が良くなる気がしない ○米不足が落ち着いたのは良かったが、新米の販売価格が上昇したため節約志向がさらに高まり買い控えに拍車がかかっている。この状況で10月からの最賃引き上げ分をカバーできるほど売上が増加するとは思えない。 ○花の仕入れ単価が上昇を続けている中、何度も価格転嫁を行うことはできず、利幅が少ない。利幅が少ない中、最低賃金も上昇し、非常に厳しい経営環境である。 ○大手食品販売やディスカウントストアなどが多い地域の中、いかにしてお客様と繋がることのできるのかを考えて日々経営しています。 ○物価高騰により石油・食品の次となる衣類は来客数の減少が目立ち単価が高額思考の方でも従来の4分の3の価格にとどまり低価は千円前後と販売価格が延びる時期ですが景気か気候の変化か本来の購買意欲が感じられない ○今年はInstagram随時更新加え帯広のファーマーズマーケットや本別のKIDAKE初出店して新規のお客様を増やすことが出来たと思いきや来年度もこの調子で出店やInstagramでお客様を増やせると思っています ○冬場にメインを向かえる中華まんの流通に関して、工場直送ができず冷凍貸倉庫の契約など商品流通に対して今まで以上にコストがかかるようになってきた。個人客も同じように送料負担が大きくなってきていると感じる。</p>
<p style="text-align: center;">サ ー ビ ス 業</p>	<p>○リピーターの客数減少及び来店サイクルの長期化 ○全てのものが高い。特に米が高すぎて困っている。値上げすれば客は来ない。安いからお客様はたくさん来るけど利益が出ない。これ以上の物価高は困る。ただ売上げだけが上がるだけ。 ○今までタイヤ交換の値段を上げてなかったが、今期とうとう上げてしまいました。少しづつ人件費や経費が上がってきているので今後も他の値上げも検討することになりそうです。 ○ニセコエリアでの競合店の凶化と共に、インターネットで調べて来店する方が増加しているため、一昔前よりもお客様が散らばっているイメージ。 ○新聞購読者の高齢化により今後さらに販売部数の減少が見込まれる。1年間で約5%の販売部数減となっていることが計算してわかっている。 ○従業員の年齢及び健康状態を考慮しても事業存続及び事業承継について熟考する時期にきているが進んでいないのが現状。少ない人数で業務を遂行するのが常となっている状況が続くのは非常に望ましくない。 ○夫婦共々高齢となり、事業承継など商工会からのお話もありましたが、今年12月で廃業を決意。 ○仕入単価の上昇が止まらず、利益の悪化が加速していると感じる。忘年会シーズンで客数は増加するが、適正な利益の確保につながるよう利用者のニーズの変化に対応した経営に努めていかなければならない。 ○金利の上昇、物価上昇で利益を得にくくなっている。人件費もかけられず悪循環 ○設備投資の結果、販売先が拡大し、売上の増加につながった。しかし、借入額の増加により、借入余力は無くなっている。10～12月は閑散期にあたり、業状の大幅な変動は見込まれない。 ○コロナ以後、悪いながらも安定している。物価高が収まらなければ改善しないと思います。 ○売上自体は増加傾向ではあるが、仕入率も上がっている他、新規事業のための設備投資に大幅な予算がかかってしまっている。今後の新規事業に期待はしたいが、資金繰りは相変わらず厳しい状況である。</p>